

平成24年度 一般選抜前期日程 小論文  
出題の意図と解答の傾向

問題1

【出題の意図】

問題1は小田亮『利他学』（新潮選書）の一部分を題材にし、人間が持つ利他性と人間が創る社会との関係はどのようなものか、という論点を提示し受験生の考えを問うた。東北地方を中心に甚大な被害をもたらした関東大震災は、発生から1年が経過しようとしている現在も我々の記憶に新しい。著者は日常ではあまりみられないような多くの利他性が、このような災害時には遺憾なく発揮されるという現象をとりあげて、その要因について2つの仮説をたてたうえで、利他性という個々人の特性が人間の相互作用によって創り出される社会とどのように関係しているのだろうかという論点を提示している。課題文の論旨は明瞭であり、受験生の関心も高いであろうと思われる。したがって、評価においては、主に受験生の表現力・構成力・説得力を基本的な観点とし、さらに独創的な着眼点の評価を加味して全体的に評価した。

【設問の解説】

1つの設問で2つのポイントを問うている。第1点は、文中で述べられている利他性と社会の関係を指摘すること（論点整理）。第2点は、人間がもつ高度な利他性に関する仮説のうちのひとつ、あるいは2つともに言及することによって、「思いやりと助け合いに満ちた社会をどのようにして築くのか」という問いに対する受験生の意見を展開してもらった（応用事例）。

・利他性と社会の関係（論点整理）

文中では、利他性と社会との関係は2つ指摘されている。ひとつは人間がもともと非常に高い利他性をもっているのだが、文明によって普段は覆い隠されているとする仮説に基づく。この場合、大規模な災害時にはそういった覆いが剥がされることで、本来持っていた利他性が発揮される。これとは別に、かなりのショックを伴う強烈な体験を共有したことで、自分たちはひとつの集団であるという意識が災害によって高まり、結果として集団内での利他性を発揮させることになったという仮説である。これらはあくまで仮説であるとしたうえで、いずれにしる普段は「制度」が利他性の発揮を妨げているという考えを著者は導き出している。（289文字）

このような点を整理して記述することが論点整理において求められる。

・思いやりと助け合いに満ちた社会をどのようにして築くのか（応用事例）

ここでは、筆者の問いかけに対する受験生の意見を問うている。したがって、当然のことながら論点整理で指摘した内容が反映されていなければならない。筆者が指摘している2つの仮説のいずれか、あるいは両方に基づいて、現実の社会問題をとりあげ、自由に意

見を書くことができる。 ちなみに著者は地球環境の問題をとりあげているが、それも含めて社会の生き残りあるいは持続性といった問題がとりあげるテーマとして適切である。たとえば、次のようにまとめることができる。

どうすれば思いやりと助け合いに満ちた社会を築くことができるのだろうか。この問いに対するひとつの例として、地球環境の問題を挙げることができる。今日、人々は大量の石油等枯渇資源を用い、大量のエネルギーを消費することで経済生活を営んでいる。その結果、二酸化炭素が発生し温暖化が進行することになり、地球の砂漠化、集中豪雨、そして海面上昇による生活領域の水没などの様々な損害が多発するようになってきている。

人間は利他的というより本来利己的な存在であると思われる。すでに自分たちの置かれている環境を破壊する段階に来ている現在、人間は利他性の強い社会を実現して生き残っていかなければならない。地球温暖化問題は地球全体がひとつの社会だと考えられるが、この問題に危機意識をもち利他的な行動をとっている人々はまだ十分多くはない。私たち個人は日常生活の中で省エネに熱心に努めているだろうか。企業は省エネ商品づくりや省エネ技術の導入に十分熱心だろうか。国、企業、組織、個人、すべてのレベルで取り組みがなされなければいけない。つくられるならば、社会に対してこの問題を啓発・教育し、省エネが温暖化に起因する問題で困っている多くの人を助けることにつながることを知らせることも大切である。(529文字)

#### 【評価のポイント】

- 論点整理において指摘すべき点が正しく指摘されており、論点を明確にしているか(理解力)
  - 論点を明確にしたうえで、応用事例において具体的なテーマをとりあげ、社会システムあるいは経済システムとの関係から解決策を論理的に説明し、全体として説得力のある文章となっているか(説得力)
  - 論点整理、応用事例が適切な構成で論理展開されているか(構成力)
  - 考えを適切に表現できているか(表現力)
- 全体として、アイデアや発想力より、正確な理解に基づいた論理展開ができているかどうかをより重視した。

#### 【解答の傾向】

- 問いの指示に対応していない解答が多くみられた。具体的には、論点整理の部分がない解答、解答の大部分が著者の意見を要約したもの、著者を客体化できず、著者と自分の考えが混ざっている解答がみられた。
- 「制度」を社会制度や経済システムと捉えることができている解答が思った以上に少なかった。警察等に相当させているが、それだけでは不十分である。
- 著者の指摘を受けて、自分の考えを、日常における漸進的な制度の改良をすべきとして

展開した解答は、説得力・構成である程度成功しているものが多かった。介護サービスの不備や環境問題などの現状の効率社会からこぼれた分野で利他性が発揮されるべきという論理構成になっている。

- 利他性と利己性を対比しながら展開したものに明快な論理のものがみられた。
  - コミュニティ問題、教育改革を事例としてとりあげた解答が多かった。このようなテーマであっても、展開に説得力がある解答であれば評価したが、単に道德教育をすべきという意見には説得力に欠けたものが多くみられた。
  - 当然のことながら、設問は「社会（制度）との関係の中で」思いやりに満ちた社会をどう築くのかを問うている。単に個人的な意見（たとえば、お年寄りに席をゆずらないのは悪いことなど）を述べたものは説得力を欠いていた。
  - 集団主義を一方向的に提案する答案が意外にあったのは驚かされた。
  - 公共マネジメント学科では、思いやりの大切さを指摘し、公の意識を強調した生き方を表明した答案が目立った。
  - 型にはまった構成（結論を最初にもってくる、また「確かに…しかし～よって-」といった構成）は、本問に適さないので、構成力の点では低い評価となる傾向がみられた。
- この他に目立った点として、漢字の間違いが非常に多かった。特に本文中に出てくる漢字、例えば「利他性→利多性」「遺憾→遺憾」「発揮→発輝」「邪魔→邪馬」といった間違いがあった。また、原稿用紙の使い方の誤りが散見された。

## 問題2

### <設問1>

日本の「子どもの貧困」をめぐる事情について、図表1～7それぞれから読み取れる内容を350字以内で説明しなさい。

### 【解答のポイント】

- ①子どもの13.7%（7人に1人）が貧困世帯にいること （貧困率13.7%）
- ②働く一人親世帯の貧困率が高く、働いても貧困から抜け出せない現実があること。 （働くひとり親世帯高貧困率）
- ③再分配以前の貧困率より再分配後の所得ではかった貧困率が高いという逆転現象があり、貧困削減効果が機能していないこと （再分配前貧困率より再分配後貧困率が高い）
- ④2000年代に母子家庭の母親における常時雇用比率が下がり非正規雇用化が進んだこと （母子家庭の非正規雇用化）
- ⑤欧州諸国に比べ家族関係社会支出が半分～4分の1程度であること （子供向け政府支出小）
- ⑥就学援助・補助金を受給する家庭が144万世帯・14%にまで増えていること （就学援助率増大。144万世帯・14%）

⑦教育費の家計負担割合が外国との比較で高水準（公的負担割合が低水準）にあること。

（教育費家計負担割合高水準・公的負担割合低水準）

<設問2>

日本の「子どもの貧困」問題を解決していく上で、家庭・親、企業、学校、国・自治体は何をすべきでしょうか。図表に示した傾向も含め世界と日本の経済、社会情勢を考慮に入れながら、350字以内で説明しなさい。

【解答のポイント】

- 「かわいそうな子どもに寄付してあげればいい」という没社会的な答えは評価できない。
- 親、特に母子家庭の親の就労形態が大きく変化し賃金収入が減少していること、子どもの貧困は親の働き方の貧困であることに気付いているか。
- 家族関係社会支出が低い、教育費の公的負担比率が低い等が原因で財政・社会保障制度の所得再分配効果が低い（むしろマイナス）、政府が貧困を後押ししてしまっていることに気付いているか。
- 現実に存在する具体的な「施策」を「財源」「景気への影響」も含め検討しているもの  
ほど高配点

【解答の傾向】

・設問1

設問1のねらいは、全ての図表の示す経済社会的意味を丁寧に理解することである。

その上で解答の傾向を列举すると、

- 図表の「傾向」を指摘するだけで、その「傾向」が意味する「経済的事情」に触れていないものが多い。  
例：「ひとり親世帯で就労、非就労の貧困率が同じ」というだけで、「賃金・所得が低く働いても貧困から抜け出せない事情」まで指摘できていない。  
例：「再分配前と比べ再分配後での貧困率増大が見られる」というだけで、「税と社会保障制度による貧困削減効果が機能していない」とまで指摘できていない。
- 図2のデータを「貧困率」でなく「就労率（または非就労率）」と誤解している。
- 図5のグラフ・データを「家族関係社会支出の対GDP比」でなく「国民負担率」と誤解している。
- 「日本の『子どもの貧困』をめぐる事情について」尋ねているのに、世界や欧州の事情を書いているものも少なくない。
- 与えられた字数をフルに使って丁寧に説明しようという意欲に欠ける解答が多い。
- 解答の叙述がどの図の説明であるのか明示的でないもの、図を取り上げる順番が意図もなく前後しているものも少なからずあった。

・設問2

設問2のねらいは、貧困対策において現実に存在する具体的な「施策」を「財源」「景気への影響」も含め、どの程度知り、かつ考えたことがあるかを表現することである。

○「国・自治体の援助」「企業の配慮」と述べるだけで、どのような具体的施策をどのような財源で行い、その景気への影響はどうなるのか、説得的に述べようという意欲に欠けるものが多い。

○設問1の解答を、繰り返すことに字数を費やし、「何をすべきか」が書けていないものが多くみられた。